

小学4年2組 社会科学習指導案

指導者 高木 敏光

福田平治、与志の業績について二人の立場に立って考え、二人にお世話になった方々やその当時の方にとって意味あることかどうかわかりではなく、現在の自分のくらしにとって意味あることなのかを追求することは、思考力・判断力が高まり、社会参画の心情が芽生えることにつながったか。

1 単元名 福田きょうだいのぎょうせきと私たちのかかわりについて考えよう

2 授業の構想

(1) 下の文章は、「新しいゴミ袋になって便利になったかを考えよう」「松江市がいつでもどこでも安心・安全な水を送るひみつをさぐろう」における学習の見学後に児童Aが書いたものである。

最初は新しいゴミ袋になったのは、絵がついたり色が変わったり、ねだんが高くなってたくさん捨てられるようになって便利だと思っていました。でも本当は、働く人たちの願いがあったり、たくさん入れられるけれどごみを処理するにはたくさんのお金がかかったりするから、おしこむのはだめなことがわかりました。その理由は、実際に工場へ行ったり、社会の授業でみんなの意見を聞いたりしたからです。工場では、分別をちゃんとしないから、くさかったりけがをしたりして大変だということも言っていました。ごみが出ないようにするには、一人ひとりが意識してみんなで少しずつでもリサイクルや4Rをやった方がよいという意見になりました。教え合ってやれば、地球の未来のためにもなるから、やっといこうと思います。

勉強する前は、水道水は、たぶん機械で作っているし、いつも同じような水が流れているから、あたりまえだと思っていましたが、友だちのひいおじいちゃんや私のひいおばあちゃんが、昔井戸や川などのきんのある水をのんで病気になったってことを知って、今の水はあたりまえというよりぜいたくだということがわかりました。その水道水は、機械にまかせっきりじゃなく、ちゃんと働く人が願いをもって、自分たちが配水池などの様子を見て管理していることがわかりました。だから、水は大切にしなければいけないと思いました。それで、この勉強が始まってから今までお風呂とかで使えばなしたのを1回ずつ止めたり、トイレで水を流した時に大量の水を今も使っているんだなど思ったりするようになりました。(児童A)

児童Aは、ごみと水道水の学習を通して、ごみ処理や水道水の供給が、自分のくらしを支える上で重要であることがわかったと述べている。それらの社会的意味を理解した上で、自分ができるところをみつけ、実践していこうという気持ちを児童Aがもっていることが伺える。このような社会的な見方・考え方ができるようになったのは、児童Aが書いているように、1つは工場などの見学で働く方々の工夫・努力について触れ、その願いを理解していったからである。ごみ処理工場では、ごみ処理工場で作る人々の環境への願いや、その実現のためにごみ処理工場が溶解処理を始めたことや、4R運動を推進している意味を理解することができたのである。それは、水道水の供給についても同じである。もう1つは、クラスでの話し合いである。子どもたちが見学で得た知識はばらばらなままのものである。そこで、ごみ処理や水道水の供給についての意味を考える場を設定したところ、それを通して子どもたちは知識を総動員していった。例えば水道水では、水道管に異常がある場合は365日、24時間整備する体制をとっていることなどを理由として、資源として限りあるもの、働く人々の願いという2つの面から水道水を大切にしていかなければならないことを理解することができたのである。

もう1つは、3月11日の東日本大震災についてのとらえである。本学級の子どもは、この事象について人ごとではなく、自分のこととして考えている。係活動として、「東日本がんばろう係」をつくり、活動の過程で自分たちができるところを精一杯していこうという意識へと変化し、日常のくらしで生かそうというくらしに根付いたものになっていった。

ただ単に震災のことを知ったり、ごみ処理や水道水の供給についての意味を理解したりするばかりではなく、社会的な事象を自分のこととしてとらえて考え、自分にできるところをみつけようとしている児童Aのような社会の見方・考え方をより多くの子どもたちに広げていきたい。そのことが、自分のくらしを支える社会的な事象の存在や意義を理解し、社会参画へとつながるからである。

(2) 本単元は、学習指導要領3・4年生、内容(5)ウに即したものである。ここでは、地域の発展に尽くした先人の業績を調べたことをもとに、その先人の働きや苦心が地域の人々の生活の向上に大きな影響を及ぼしたことを具体的に考え、地域社会に対する誇りと愛情を育てることを目的としている。そこで、本単元では、福田平治・与志きょうだいを取り上げることとする。

福田平治は、1866年に鳥取県に生まれ、社会福祉事業を明治時代から昭和時代初期まで取り組

んだ人物である。与志は、平治の妹で、1872年に生まれ、40歳の若さで亡くなるまで目や耳の不自由な子どものために、まさに命をけずって取り組んだ人物である。

2人を取り上げる理由として2点挙げる。1つめは、子どもにとって身近になっていく要素があることである。本校の近く、松江市北田町に「愛隣会館」という建物がある。この建物の敷地内に、顕彰碑がある。本校の近くであるので何回でも見に行くことができる。また、この建物の存続を願う「NPO法人 福田平治・与志顕彰会」の方は、本校の近くにお住まいでお話を伺いに行くことが容易にできる。子どもたちにとって、1度ではわかりづらいこともあるが、何度でも見たり聞いたりすることができることは、身近な存在として感じられる要素であると考えられよう。また、1学期から子どもたちは、目の不自由な人のために自分たちができることは何かをいきいき(総合的な学習の時間)で考えているので、与志の業績について身近に感じられるであろう。2つめは、切実に追求しようとする要素があることである。平治は、1893年にあった松江大洪水後孤児たちの松江育児院を開設しお世話を始める。13歳より実質経営者として印刷会社を営み、それが成功を収めていたころにもかかわらず、県や市が孤児を引き受けないのにお世話を始めたのである。また、与志が、自分の財産をすべて使ってでも目や耳の不自由な子どものために学校を営み続けていったことは、障がい者に対してまだ理解が少なく、女性の社会進出もほとんどない時代であった当時の社会背景から考えて、理解しがたいことである。だからこそ、子どもたちは切実に感じ追求をしていこう。また、自分の成功や財産をなげうってまで、誰もが幸せになるために何かをする2人の姿は、子どもたちのくらし方に訴えるものがあるだろう。そのような願いと実現は、子どもたち一人ひとりでもできること・すべきこととしてとらえられるものであろう。それをもとに、子どもたちが自分たちでできることは何かと真剣に考えられ、社会へと参画していこうとする心情を育てられるものだと考えられる。

以上のことから、福田平治、与志きょうだいの業績の意味を、見学やインタビュー、本などで調べることをもとに考えることを通して、2人の願いを理解し、誰もが幸せに生きていくために昔から努力している人々がいることに気づき、それを後の世にもつなげていこうという心情をもつことをねらいとする。

(3) 子どもにとって、本単元は、歴史的な見方・考え方を要する内容である。そこで、第1次と2次において、自分ならどうするかと2人の立場に立って考えることによって、自分のくらしと業績を比べることを通して、当時の人々にとっての意味ばかりではなく、現在の自分からみて、2人の業績をどのような意味があるのかを追求していくようにする。その際には、当時の社会的背景をふまえられるようにしていきたい。そのためにも、子どもと平治、与志との出会いの場の設定の工夫が必要となる。第1次では、顕彰碑、愛隣会館というシンボルから平治の行ったことの社会的意味を子どもたちの問題として設定する。そこで顕彰碑の出会いによって意味あることをした人という前提で、子どもたちは事実を関連づけながら社会的意味を考えられるようになる。第2次では、与志が本校の卒業生であること、松江盲啞学校の碑が学校の近くにあること、自分たちが総合的な学習の時間で取り組んでいる目や耳の不自由な人たちに対して学校をつくったことによって身近さを感じられるようにする。与志の業績の意味について、本庄小学校での教師としての仕事を辞めてまで京都盲啞学校へ研修に出かけたこと、本庄小学校で出会った耳の不自由な石橋ハルさんを京都盲啞学校へ通わせたこと、学校存続のために婦人会へ経営を譲渡したことから考えさせる。そして、2人の願いの共通点をさぐり、誰もが幸せに生きていくべきだという願い、当時は、恵まれない人を助けるということへの理解がまだ広まっていなかったという社会背景を理解させることによって、困難の中でも願い実現のために切り拓いていった2人の願いの強さを味わわせたい。子どもたちは、2人の業績を次のような4点の視点で意味づけするだろう。①直接的には今の私たちくらしには影響はないが、素晴らしいことをした(社会的意味)、②松江市民として誇りに思う、ありがたい(社会的意味)、③昔からこうやって努力した人がいたから今のくらしがある(歴史的な見方・考え方)、④大震災の時私たちは自分のできることはと考えたことと同じ(歴史的な見方・考え方)、という見方をするだろう。特に、①の子どもたちは、今まで調べたことを網羅的にしかとらえられず、業績の意味についても「すごい」としか思えないと考えられる。2人の業績は、当時の人々にとって意味のあるものだという社会的意味と、今の私たちにとって意味があるかという歴史的意義と子どもの視点によって違うことに関しては、第3次に明らかにしていこうと考える。

第3次は、2人の業績を今生きている私たちがどのようにとらえるとよいのかを考え、子ども一人ひとりがどのように社会にかかわっていけばよいのかを考えることとする。第2次までは、2人の業績について、社会的意味と歴史的意義を混在させて捉えている。そこで、2人の業績は、当時の人々

(2) 展 開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と願い・評価 (◎は学び合いのためのはたらきかけ)
<p>1. 2人のことは松江の人にあまり知られていないという事実を知り、本時のあとで確認する。</p>	
<p>2人のぎょうせきについて、私たちが周りの人々に伝えたいことは何かを明らかにしよう</p>	
<p>2. 2人の業績について、私たちが周りの人に伝えたいことは何かを考える。</p> <p>○何を伝えてよいのかまとまらない子 ○伝えることが、行ったことなのか、2人の願いや苦労なのか迷っている子</p> <p>3. 2人の業績について周りの人に伝えたいことは何か話し合う。</p> <p>○2人の業績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平治さんは、自分のお金で孤児院などを建てた。 ・与志さんは、教師の仕事辞めてまで、目や耳の不自由な子どものために学校をつくった。 <p>○松江の人のほこりとして</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちが全然知らなかったけど、知って同じ松江に住む人だと思って、うれしくなったから。 ・すごいことをした人のことを知ったら、松江ってすごいということになるから。 <p>○2人の願いや苦労</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2人は、誰もが幸せになってほしいという願いをもって、理解されないのにやっていった。それは、今の私たちにも役立つことだから。 ・自分のことばかり考えず、みんなのために何かをすることは大切だということは今でも知らせたいことだから。 <p>・私たちに、誰もが幸せになってほしいと願ってほしいということを2人なら言われるじゃないかな。</p> <p>・誰もが幸せになるために、人に頼るのではなく、自分一人でも何かをしていこうという気持ちをもってほしいと言われるんじゃないかな。</p> <p>・私たちは、2人の業績を知らせることや誰かのために募金を続けるということ。</p> <p>・2人の心を知れば知るだけ、誰かのために自分のできることを考えるようになるということが2人が今の私たちに伝えたいことだと思う。</p> <p>4. ふりかえる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は、2人が誰もが幸せになるために、自分のことはなげうってでも取り組んでいった強い心と、その心が、盲学校やろう学校、年末助け合い運動にも残っていることが伝えたいです。そして、その心を残そうとしている人が松江にいることも知らせたいです。自分たちが大人になってもずっと考えていきたいと思えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2人が今の人たちに知らせたいと思うことは何かを問い、既習の内容を想起できるようにする。 ・多くの事実をえているので、理由の背景にあることを学習したことをふりかえりながら、思い起こすことができるようにする。 ・2人の行ったことについて、羅列的に並べる子どもに対して、前時をふりかえり、自分たちにとって意味のあることは何かを聞き、歴史的意義について考えるように促す。 ・2人の業績を残そうとしている人がいることや、松江の誇りだという人ごとのような意見に対して、自分にとって何が伝えたいのかとめあてに戻るよう促し、自分とのかかわりについて考えられるようにする。 ・2人の業績を残そうとしている人がいることについて意見をいう子どもに対して、なぜ残そうとしているのかを問うことによって、今の私たちにとってどのような意味があるのかを考えるようにする。 <p>◎2人の業績のすばらしさを、当時の社会背景の中で、他の人に理解してもらえず、協力してもらえなかったにもかかわらず、自らの手でやり遂げた事実注目するよう、理由で勇気がある、実行力があるといった子どもの発言を取り上げる。</p> <p>◎福田きょうだい自身は今の私たちに何を望んでいるのかを問いかけ、2人の願いに寄り添いながら、業績の意味について考えられるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">— 評価の観点(社会的な思考・判断・表現) —</p> <p>今までの学習をもとに、2人の業績について私たちが周りの人に伝えたいことは何かを話し合うことを通して、2人の業績の社会的意味と自分とのかかわりについて考えたことをもとに、自分がどのようにかかわっていけばよいかを考えている。</p> <p style="text-align: right;">【評価方法 ノート・発表】</p> <p>支援</p> <p>2人がしたこととどんな人たちが幸せになったのかを考えるように勧め、自分は2人に幸せにしてもらっていることがないか考えられるようにする。</p> </div>